

# 川づくり 清瀬の会

会誌 第24号 2015年 3月発行

発行者 宮澤とよ美 編集者 会誌編集委員会 連絡先 042-491-3616

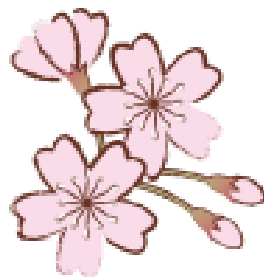


清瀬・台田運動公園は、約 1.3km の間に 140 本の桜がトンネルを作ります。

(写真提供：清瀬市役所)

## 目 次

柳瀬川・空堀川合流点工事 25年度継続予定工事が始まる	宮澤 とよ美	2
空堀川清掃に参加して	金内 彰	5
清瀬の水事情物語(5)	小西 一午	6
この川、なかりせば……	鈴木 紀代子	7
環境への思い	菅 功輝	8
河川と自然シリーズ⑫ ノゲシ、オニノゲシ	大谷 恒子	10
植栽地だより 倉庫が2つになりました	宮澤 とよ美	11
川と温泉⑦ サンシップ今井浜	木村 芳信	12
活動記録(平成26年9月～平成27年3月)	宮澤 とよ美	13
事務局だより	宮澤 とよ美	15
編集後記	金内 彰	16



## 柳瀬川・空堀川合流点工事 25 年度継続予定工事が始まる

宮澤 とよ美

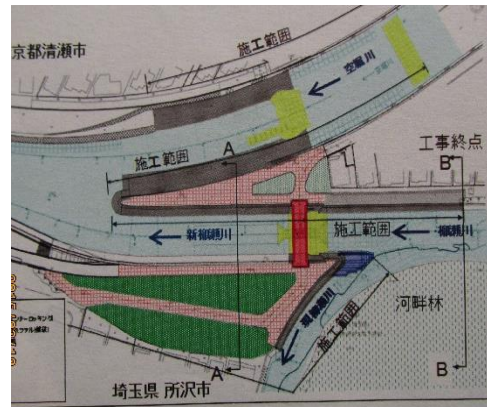
### ◆これまでの経過

平成 24 年 3 月、現柳瀬川の河畔林保護を目的とした水理模型実験が行われた。その結果として 12 月 12 日、分流点右岸から左岸の河畔林までの分水工と、分水堰のコンクリートで固めた人工的な施工図が近隣市民に提示された。

懇談会まとめて残された図面は、旧川になる柳瀬川への流入口が 3.7m 巾、これに対して可能な限り広げ、淵や瀬を作る自然の流れを要望していた。だが水理模型実験後の図面は、旧川へ極端に流入量を制限するための分水構造、一見して保存したい左岸の河畔林が守られるのだろうかとの疑問に思う。水の力は大きく、手を付けて欲しくない天然護岸を洗掘されかねない。この提示された図面は、私たちが求めてきた多自然川づくりから大きくかけ離れ、後退したものに見える。

25・26 年度と、島谷先生や吉村先生にご指導を頂きながら、何とかしてもう少し自然度のある川を、分水工の形態を工夫できないか、必死の提案書を何度出したことだろう。並行して市行政とも話し合いをし、副市長が北々建に何度も掛け合って下さりご苦勞をおかけする。当会も北々建に話し合いを要望し、立川から 2 年間で 5 回出向いていらしたが、一方的な説明ばかりで話し合いの体制は取っていただけず、毎回提示された図面が河畔林保護の最上のものであることの繰り返しに終始してしまった。

この説明会も 26 年 9 月 3 日、清瀬市での会合が最後になり、荒川課長から「吉村先生のご提案については検討しましょう」その言葉は強く心に残る。それであれば吉村先生にご同席頂いての話し合いなら少しでも良い方向に考えを変えて頂けるのではと、先生のご同席を都に求めましたがその都度「吉村先生と話す気はありません」と取り合って頂けない。



問題が多い 12 月 12 日に出された図面



落札時の設計図

(人工物で固め黒く見える)

市行政が工事の進行を了承すると間もなく、北々建は当然のごとく 26 年 11 月 10 日電子入札をかけ、同時に今村組によって落札される。今村組も新川の左岸工事を 24 年

度に終わると 25 年度工事に入る矢先に工事を中止し、右岸の護岸工事用に掘り下げた土砂を元通りに埋め立てるといっても不可解な作業で終わる。

不審に思っていると誰にも知らせることなく、これまで計画にない 8 t 対応車両の橋梁を建設する計画が進められていた。懇談会でも又市行政も望まない橋建設の為に都は 2 年の工事遅れや植栽地と合意されている狭い余地に 4m 巾の管理通路 2 本を施工しようとしている。当会が提案した人道橋は、「石田橋・くるまや橋を活用」と拒絶されただけに当然橋があれば便利とは考えるが、その手法に納得がいかない。分水工事区間の右岸には拡幅に十分な河川用地があり、その用地活用で左岸河畔林保護と河川景観を損なうことなく美しく、たれもが親しむ事の出来る河川空間が生まれるものと信じていたが、コンクリートで狭めた上に固めてしまう工法は何としても残念。一貫して河川管理者の主張は、残された現柳瀬川の河畔林保護のために、洪水時最大流量  $110\text{m}^3/\text{s}$  の約 8 割  $85\text{m}^3/\text{s}$  を新柳瀬川に分水し、残りの  $25\text{m}^3/\text{s}$  を旧柳瀬川にと最初から決定した上での分流工事です。当然水理模型実験の条件は、旧川の流量を  $25\text{m}^3/\text{s}$  に抑えるためだけの構造を求めていた。

現柳瀬川は長い年月、洪水時も全量を流下させながら現在の河畔林と護岸を形作り安定をさせてきているように思う。何故  $25\text{m}^3/\text{s}$  に抑えるのかその根拠を求めてきたが、とうとう納得がいかないままに押し切られてしまう。又、分流工事個所の設計図は、護床ブロック・分土工・分水堰・落差工等、河川法改正以後の生態系や景観に配慮をされたものではなく、旧態依然の人工物でがっちり固められ、淵や瀬も作る事の出来ない不自然な川づくりにやはり賛同はできない。河川法改正後は、治水が確保されれば、河川景観、河川環境は地元の要望が最優先される。

天然護岸・河畔林を破壊しかねない分土工は工事後様子を見て後に施工してもよいのでは、と副市長もお願いをして下さったのだが、一切検討されることなくことごとく否定されてしまう。市行政や地元市民の意見に耳を傾けず、合意形成を望まない河川管理者の強引さがどこにあるのか理解し難い。

これまでの北々建は、改修工事途中であつてもより良い工法の提案は受け入れ地元の思いを生かして下さる。例えばすでに杭打ち後のちでも金山緑地公園を縮小することなく土手を生かし、生態系保存のために対岸の管理通路を水面近くまで下げ、高度な技術と工夫で多くの方が親しむ事の出来る緑豊かな水辺を残し、憩いの場として名所となる。又、平成 23 年施工の新柳瀬川石田橋下流の落差工は島谷幸宏教授のご厚意で模型作りをして頂いたもの、河川管理者の決断で施工をして頂き、驚くほどの魚が遡上、柳瀬川回廊として誇るべき場所となっている。

今期の工事は落札されてしまい設計そのものは致し方ないのであれば、分土工・分水堰・護床ブロックの工法を、緑を生かし生き物がつながるよう、26 年 12 月 12 日吉村伸一先生にご同行を頂き、本庁河川改修係長落合氏に面会を求め、北々建にて話し合いを持ち待ち、その席で吉村先生から下記要望をお願いして頂く。



まず河畔林に護岸を入れないことを北々建に確認。

1、山付きや過去に浸食がなかった場合には護岸をいれない。もしも浸食があり工事が必要な場合は後ろ側に立てて、前からは見えないようにする。

2、分土工・分水堰の具体的な形状の説明を担当者から受けられたのち、分土工は階段形式で自然に溶け込んだ工夫を。予定をしているアンカー止めの丸石張りは不似合、切り石でもよいのでは。(例を写真でお示しになりました)

他に水辺へのアクセスがない場合、分土工を使って水辺に親しめるよう階段形式の形状を工夫して欲しい。

3、護床工は連結ブロックを 50 cm埋め、その上に現河床材をのせる。(護床ブロックを見えないようにする)

\*根固め工を深く入れる。河床を守り、淵を作る。ブロックの高さを考える。

4、橋の構造について 緑でカバー等体裁を整える。

5、落差工の下にウオータークッションの施工を。

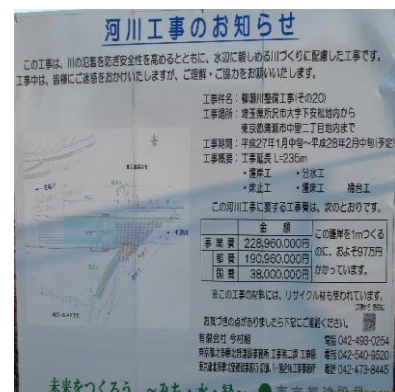
6、現在の合流点、1.8m の落差工対策について、上流からバープ工をいくつか造ることにより落差が吸収でき緩やかなものとなるので推めたい。

\*空堀川合流箇所上流の落差工については改めて話し合い。

当会が最初から要望していることは、天然護岸と河畔林の保存です。この場で河畔林には手を付けない、形状を変えない約束はされている。その上で分土工を丸石で固めるのではなく、切り石を使って誰もが水辺に近づけるような構造に提案している。是非上記要望を現実のものにしていただきたく、都の環境・建設委員会副委員長河野ゆりえ氏に願書を書くがご連絡がつかず残念する。又、多くの団体皆様が現状をご覧下なり、力添えの申入れがあってもその方法が見つからない。

一方対岸の埼玉県では河川の再生に重きを置き尽力が続いている。ですが最初からポイントブックに沿ういい川づくりがなされればのちに大きな改修は必要もなく、市民の憩いの場として生かされる。2月13日、吉村先生と東京都の話し合いで上記提案に対して

「分土工下流の護床工は提案通りの施工」又、「現合流点 1.8m の落差工はバープ工で考えています」とのお返事を頂く。当会も落合係長にその件確認をし、なおも吉村先生から他の箇所も提案を生かした工事をとお願いをして頂いているので、検討を願い、重ねての話し合いを要望、返事待ちです。3月20日現在まだお返事は頂けていないが、工事は予定通り進行している。



工事の告示

## ◆工事状況



橋梁台工事



護岸工事

## 空堀川清掃に参加して

金内 彰

平成 27 年 3 月 14 日(土)午前 9 時 30 分空堀川清掃が開始された。会員の皆様をはじめ今回も多くの方にお手伝いいただきました。ありがとうございました。毎回感じる。なぜこんなに多くのゴミが捨てられているのだろう……と。

川はゴミ捨て場ではない。川に投棄されたゴミによって、土壌や水質に悪影響を及ぼす。ゴミの最後は海に流され、海の環境にまで悪影響を与える。

そんなことを考えながらの（怒りながら）清掃だ。いろいろなゴミが捨てられているが、ポイ捨てによる「たばこのフィルター」がやけに目についた。今日は、「たばこのフィルター」も逃さず拾おうと思った。フィルターは、川辺より高所にまとまってある。その数と言ったらとんでもない多さだ。タバコのポイ捨ては水のある川が安全だと考えがちが（空堀川に水は少ない）、フィルターは地上に放置されても分解されない。プラスチックや空き缶を捨てるのと同じと考えていただきたい。



江戸時代のゴミ問題についてネットで調べたことがある。

「川筋、不行儀にあり。川へちりあくた（埃芥）を捨てざるよう……」という表示があったそうです。江戸時代でも現代と同じようなゴミ問題が存在していたということです。

ゴミを捨てることで川が汚れ海が汚れ、その処理に税金が投入される。川にゴミを捨てることは誰にとっても良いことは一つもないのです。

これからも声を大にしてお願いしていかなければ……。そんなことを考えながらの空堀川の清掃が終了しました。

## 清瀬の水事情物語(5)

小西 一午

それまでの河川管理を所管する建設省（現国土交通省）は、治水と利水を主たる事業としていたが、昭和 62 年度公害の憲法といわれる公害対策基本法が制定されその番人として環境庁（省）が発足して法の最大の目的である環境基準を河川をはじめ湖沼・海水等の清浄の度合を 6 段階に分類して示されたのである。

これを受けて河川法も改正され、河川管理は環境整備や保全達成も含め住民と協働して総合的に行うべきとされ、従来の治水・利水のほか環境保全や親水機能も考慮されることとなった。これにより宮澤会長ほか数名の川づくり会のメンバーと市の関係行政当局の職員も参画する柳瀬川・空堀川流域連絡会（私もかつてそのメンバーだった）もでき、

柳瀬川の河川改修、改善、監視、調査などの体制も整備され、金山緑地公園や調節池の築造も成り、金山調節池はその名の示すとおり本来は柳瀬川中流域の洪水調節を目的とするものであったが、池の外周部や底部から豊かな湧水があり、湿潤な環境が保たれており水鳥やトンボなどの小動物・昆虫のほか湿地性の多様な植生がよく繁茂して、自然豊かな水辺空間となっており、武蔵野の風光明媚の所緑



金山調節池

地公園と相俟って豊かな環境を形づくっていた。水や地形などの自然と豊かな動植物とが一体となっている特定の場所を「ビオトープ」といっているが、この柳瀬川金山調節池の周辺こそまさに多摩随一のビオトープと云って過言ではないのである。特に動く宝石といわれる

水鳥の「カワセミ」の観察も楽しめ、それは柳瀬川に沿った散策コースの一つの拠点となっている金山調節池であった。

水環境の最後の一つは親水機能である。当初は水に触れるとか水に接するといった人々が水と親しむ行為の概念としかとらえられていなかったが、それが環境保全機能と合わせ広く水辺の町づくりとして住民との深いかかわりをもつ親水機能となったのである。我々川づくりの会が主唱している「きよせ川まつり」は清瀬の夏の風物詩に位置づけられ街の年中行事の一つのイベントとして愉しまれている。また、市民が待望していた空堀川との新合流点の工事も住民とのコンセンサスを重ねて築造中であるが、ただ一つの懸念がある。環境庁の定める環境基準の河川の清浄評価で、柳瀬川のそれはあのドブ川だった当時の最低のランクの評価のまま改定もされずに放置されていることである。私も改善されることを強く望んできたところであるが、子ども達が水遊びに興じていたり、また清流にしか棲息しないとされるアユ等の生態系を散見されるというのである。公害の憲法・公害対策基本法では、環境基準設定は法の最大の目的であり、そ



れらはつねに適切な判断が加えられ必要な見直しを行わなければならないと規定されている。この環境基準の設定に同庁在勤時代にかかわった経験のある筆者に云わしてもらうならば、環境省からその処理を委任されている東京都の関係者は住民の気持ちを十分に配慮していないものと思われる。

第19号から2年有余にわたって連載してきたこの稿が終るにあたって、願わくばこの稿が皆様の目に触れるころには環境基準の改定実現がされて真の清流柳瀬川の評価がなされていることを望むものである。



清瀬せせらぎ公園

長い間お付き合いいただきありがとうございました。

(完)

## この川、なかりせば……

鈴木 紀代子

2月16日、暖かい日差しに誘われて、正午頃散歩に出かけた。双眼鏡を手に持ち城前橋を渡り、柳瀬川右岸を上流に向かって歩く。前方に富士山が白いドレスの裾をひいて迎えてくれる。道端の枯草の中でオオイヌノクグリの瑠璃色の花やホトケノザの赤いつぼみが春到来を告げている。通りすがりの人が声をかけてくれる。

対岸の紅梅をめで、川まつりが行われる流域の川面のキラメキに感動し、マイソングを口ずさみながら金山調節池に歩をすすめる。

「チョー・ラッキー」（今風でしょ）調節池の中の島にホシゴイがいたのだ。ここでは初めての出会いだ。ダイサギ・アオサギ・コサギにカワセミ、いつものメンバーとカモ達。この時期はカメラマンは少ない。金山公園に入り、ベンチに腰掛けてゆっくりと過ごす。三々五々散歩する人、犬の散歩、子ども達のはしゃぐ声、きれいな空、幸せな時間。



ホシゴイ

清瀬に住んで23年程、今この市に暮らす幸せを思う。柳瀬川・空堀川の春は桜・カタクリ・野草たち、夏は緑の雑木林やケヤキ並木、錦秋の金山公園。冬の柳瀬川と富士山の風景は素晴らしいもので、私のセラピーネチャーである。

川の治水問題や自然を守ることに尽力されている方々に感謝しながら、私はこれからも柳瀬川や金山あたりを彷徨するだろう。

この川がなかったら、私の生活はとても淋しいものになっていると思うこのごろである。



## 環境への思い

有限会社 丸松産業

文責：菅 功輝

弊社、有限会社丸松産業が平成5年に環境事業として起業して今年で22年となります。

当初は「環境貢献」という言葉にあこがれ、起業したわけですが・・・

新座リサイクルセンター開業当時、所沢近辺は焼却炉から出る煙害やダイオキシン問題等で「産廃銀座」という不名誉な名称までつけられており、埼玉西部地区もその風潮は同様でした。



その中、産業廃棄物業者として参入し、新規施設を立ち上げることは並大抵のことではありませんでした。

新座市大和田に中間処理工場を設備するにも、行政機関がなかなか首を縦に振らず、新座近辺の住民説明にも足しげく通い、やっと地域住民の理解を得られ、逆に応援していただくまでになり、許可を得ることができました。

これも地域住民のご理解と応援の賜物と思っております。



弊社代表 松崎一志も、このことを初心に刻み、社訓の一節に、こう記してあります。

本当の「社会貢献」は、地域の人々から愛され信頼される企業であることだと考えております。そのためには、地域の方と良好な関係を築き、理解をいただき、「うとまれる施設」から「望まれる施設」になることが成功の第一歩だと考えております。

環境への貢献＝社会への貢献。そのためには、産業廃棄物を適正に処理する「新座リサイクルセンター」だけでなく、一般の方々にもっと環境理解を深めてもらおうと、「容器包装リサイクル事業」に取り組み、平成18年には川島町に「川島再商品化工場」を開設し、さらに、一般的な環境基準として認知度の高いISO14001を取得。翌年には、リサイクル品の質を高めるため品質ISO9001の取得もいたしました。



おかげさまで、平成 23 年には、容リ事業の拡大に取り組むことができ、より大きくリサイクルに貢献出来る様になりました。

川づくり・清瀬の会の方々は、地域「環境保全」という趣旨に感銘を受け、各種ボランティア活動や、環境フェア、川まつりにも毎年参加させて頂いております。



また、新座近辺のロードサポートによる清掃活動や、川島町においても中学生の体験学習の受け入れなど、様々な環境活動の啓蒙に努めております。



平成 27 年 2 月 20 日には、宮澤様はじめとする会員の方々に弊社施設（新座リサイクルセンター、川島再商品化工場）にお越しいただき、環境事業の一端を垣間見ていただき、ご理解を深めて頂けたと確信しております。



皆様のご理解とご協力に感謝し、これからも弛まぬ努力を続け、皆様のご声援に恥じないように環境事業の発展に寄与すべく努力していく所存でございます。

会員の皆様におかれましても、これからも末永くお付き合いいただければ、幸甚至極でございます。

## ノゲシ、オニノゲシ

大谷 恒子

### ノゲシ



道端や空き地などに生える。高さは50～100cm。春～夏、茎の先に黄色の頭花をつける。葉は羽状に切れ込み、葉の基部はとがって茎を抱く。別名 ハルノノゲシ。全体に白い粉を帯び茎などを切ると白い乳液が出るが、ケシに似る。日本に古くから帰化している。葉は食用になる。ヨーロッパ原産で世界中に帰化する。(葉の縁はとげ状になるが、さわっても痛くない)

### オニノゲシ

道端や荒れ地に生え、花期は主に春～秋だが、年中開花する。頭花をつける。葉の基部は張り出して、下に向かって丸まり茎を抱く。高さは50～100cm。ヨーロッパ原産で、明治時代に渡来が記録された帰化植物、世界中に分布する。(葉の縁のとげは鋭く、さわると痛い)

油断できないノゲシとオニノゲシ この2種はヨーロッパ原産の帰化植物で、英語では「種まきあざみ」という。

帰化植物の特性のひとつは、原産地を離れて新しい土地で大量の種子をまき、短期間に個体を急増させること。さらに気温が高ければ、いつでも花を咲かせ、実をつける。

畑の作物の肥料を奪い、我々に損害を与えることもある帰化植物は、油断できない存在である。





## 植栽地だより 倉庫が2つになりました

宮澤 とよ美



2012年3月10日、小雨の降る寒い日に、多くのボランティアさんと共に、エノキ・クヌギ・コナラ約150本を植栽。おおよそ120cmの幼木は今春4年目に入り今は3m～4mに成長し雑木林らしい形を成してきました。何もない所への植栽は苗木が枝葉を伸ばし木陰を作るまで、林床に生える野草や実生の幼木の種類も多く大変興味を引きます。13年の春に芽生えたナンキンハゼ（トウダイグサ科）は近隣では四小の校庭で見られる

**4年目に入る植栽木** 位で珍しい木ですが、驚くほど成長が早く、一番先に伸びて他の植栽木を見下ろしています。空堀川の管理通路沿いに生えるエノキの影響で、まず無数にエノキが芽生え、これも数本は植栽木と変わらぬほどに伸びています。

来年は花をつけるだろうと思われるサクラが4種、ゴンズイ・トウカエデ・ウメ・ヤマコウバシ・コブシ・ムクノキ・エゴノキ・ムラサキシキブ・昨年から花をつけ始めたガマズミ・生ごみを埋めたためか柑橘系の物・切っても出てくるヤマグワ多数が植栽木と今のところは共生していますが、そのうちに混みすぎるものは整理が必要になります。

この1000㎡に満たない林ですが林床に陽が入る今は野草の成長が早く、何度となく足を運び下草刈りと下枝の剪定作業が行われます。

それらの道具とイベントの都度使う水槽・魚捕りの網・胴長・水質調査用具一式・環境学習用具（顕微鏡等）・芋煮用かまど・鍋・食器・これまで展示をしてきたパネル類・清掃用具一式等々20年の活動の間に必要用具が増え、倉庫に収まり切れない物も多くなってきました。



今年2月、「倉庫を差し上げましょうか」とお声をかけて頂き、**新しく頂いた倉庫(右)**大事に使われていた良質の倉庫を頂くことができました。3階の建物から分解し植栽地に運搬、据えつけまで手助けくださいましたスガワラ印刷様・三英建設様に御礼を申し上げます。お蔭様でこれまでブルーシートをかぶせて保管していた物も倉庫に

収める事が出来ます。振り返りますと、倉庫を下さいました皆様には長きに渡り、子供たちの為に、又事あるごとに本当に暖かく活動を支えて頂きましたこと深く御礼を申しあげます。どうなること不可能と思われました更地への植栽、どうなることと思いましたが今は都の保全緑地と一体になり、緑豊かな河川景観を創出しています。年ごとに変化する多種の野草や野鳥、その中には無数の昆虫が棲み、四季を通して維持管理作業の苦労は多いのですが楽しみな観察場所です。狭山丘陵まで来ているオオムラサキが、近い将来林間を舞う姿を夢見て、市民誰もが関わられる保存林として見守って行きたいと思えます。

## 川と温泉 ⑦ (サンシップ今井浜)

木村 芳信

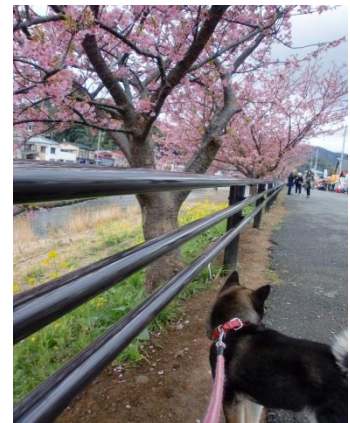
日本には、川（海）の近くに温泉が数多くある。その中でも露天風呂が好き。  
今井浜温泉「サンシップ今井浜」伊東マリンタウンで、愛犬ヨシといつもの車中泊。私はヨシを置いて食事処のお魚で一パイです。（本日は運転しないからです！！）車中泊でもヨシは早起きです。6時前には散歩のおねだりです。前日に上げたドックフードは手つかず。いつもおでかけは、おやつだけしかたべません。（愛犬を見習いたい）ヨシの早起きのおかげで河津には9時前には着いてしまいました。朝早かったけれど大勢の桜見物の方おりました。桜は河津川の河口から桜並木が続いています。



マリンタウンで

この並木道を愛犬ヨシとぶらり2時間程河原で石拾い等、ヨシは肉系のおやつを食べ楽しい散策でした。

ここで川沿いに立ち寄り湯があるので、車がおけそうも無いので、お祭り会場から車で5分程にある今井浜温



河津川の桜並木

泉（サンシップ今井浜）に向かいました。ここの混浴露

天風呂は、本館より少し離れたところにあり2分ほど服を着て移動になります。混浴露天風呂は屋根もないので冬やお天気の悪い日はつらいですが、晴れた日には本当に絶景です。

誰もいませんでした。一人のんびりと温泉に入れました。

残念ながらサンシップ今井浜は閉館してしまいました。



2段の露天風呂で先は海で絶景

◇◇2014年度 活動記録（平成26年9月～平成27年3月）◇◇

- 9月3日（水）北々建との第6回話し合い ※ひまわりにて2時間「説明をしましたのでこれで進めます」とのこと。なお話し合いを求める。課長より「吉村氏の提案については検討します」と発言有り。  
宮澤・加瀬・木村・正木・金内・大谷恒子・小西・宮原・斎藤・渋谷・星野・早川（都）荒川課長・富澤課長補佐・牧野係長・石山。
- 9月4日（木）幹事会 合流点の今後の活動について。納得できないとの意見多数。情報開示請求の決定。ご指導をいただくために都議会への請願を山下事務所に送る。
- 9月9日（火）早川氏・斎藤氏 請願について話し合う。採択されないだろうということで断念をする。
- 9月10日（水）北々建へ再度要望書提出  
1、分流工事において、河畔林の水際および河畔林に手を付けることなく保全  
2、柳瀬川へ洪水時最大流量25t/sの根拠として、現柳瀬川の不等流計算式及び結果の提示。
- 9月11日（木）都庁に、合流点橋の建設と模型実験2件の情報開示請求を提出  
戸塚・木村・加瀬。宮澤。
- 9月12日（金）市長、河川工事着工を許可。
- 9月14日（日）植栽地の草刈作業 清瀬市オオムラサキの幼虫をエノキに放す  
木村・加瀬・金内・宮澤・田中・酒井・大谷（恒）・松下 8人参加。
- 9月16日（火）新河岸川流域連絡会 宮澤・加瀬・戸塚。
- 9月17日（水）北々建 流域連絡会進行中の工事について 宮澤・加瀬。
- 9月23日（火）会誌23号発行。
- 9月27日（土）28日（日）活動センター各団体活動紹介 パネルと魚展示
- 9月30日（火）環境・川まつり実行委員会 宮澤・金内
- 10月2日（木）幹事会 ふれあい祭りについて 川でつながる発表会について。
- 10月19日（日）市民祭り 緑の基金募金活動 金内・宮澤。
- 10月24日（金）空堀川のセイバンモロコシ（外来種）刈り取り 宮澤。
- 10月30日（木）4小の環境学習 宮澤・大谷。
- 11月6日（木）午前：環境・川まつり実行委員会 午後：幹事会。
- 11月7日（金）ふれあい祭り前日の手伝い 大谷・木村・宮澤 駐車場の線引き。
- 11月8日（土）ふれあいまつり 矢島氏・増田氏 投網依頼 魚の展示 田中・加瀬・大谷(2)・木村・小西・宮澤・戸塚。
- 11月9日（日）市内一斉清掃(柳瀬川) 小西・加瀬・酒井・大谷(2)・木村・宮澤。



- 11月10日(月)合流点電子入札 今村組が落札 午後北々建へ情報開示書面を受け取りに200枚。 戸塚・木村・宮澤・加瀬。
- 11月11日(火)空堀川業者による草刈りの前の植物保存マーキング 宮澤。
- 11月13日(水)開示請求書面の検証 博物館講座室 木村・今泉・田中・加瀬・宮澤。  
※橋について追加開示請求 10件を北々建に要求。
- 11月16日(日)くぬぎ山の音楽会。 木村・宮澤。
- 11月17日(月)埼玉河川連合会 大石・藤井 他3名 合流点を見学 大谷・宮澤・木村・田中で案内。
- 11月18日(火)都環境・建設委員会河野ゆりえ氏副委員長に合流点の件書面にて訴える。
- 11月19日(水)北々建流連の後 宮澤・平田氏と2人 荒川課長・係長・課長補佐と合流点について話し合う。 まったく変化なし。
- 11月21日(金)情報開示書面木村氏が印刷。製本作業：加瀬・大谷・木村・宮澤
- 11月22日(土)吉村氏に開示書面を送付。
- 11月25日(火)河野ゆりえ都議氏に再度御願い書面を送る。
- 12月4日(木)幹事会 合流点の件、新年会の件、川でつながる発表会の件等。  
5時、藤井氏会い12月12日北々建話し合いの件について打ち合わせ。
- 12月5日(金)水理模型実験の情報開示書面検証 今泉・宮澤。
- 12月6日(土)活動センターの会で活動紹介。資料づくり浜野氏にお願いして発表。  
宮澤・戸塚・加瀬。
- 12月8日(月)合流点入札図面都庁で入手。 木村・加瀬。
- 12月10日(水)北々建流連 空堀川の将来像について 加瀬・宮澤。
- 12月12日(金)北々建にて 柳瀬川・空堀川合流点について、吉村伸一先生にご同行頂き話し合い。 加瀬・戸塚・木村・斎藤・宮澤・今泉・菅谷・藤井 本庁河川改修係長落合貴代司 他1名 北々建 富澤・牧野・石山。
- 12月14日(日)川でつながる発表会第10回 所沢東小学校 宮澤・加瀬
- 12月16日(火)環境・川まつり実行委員会。 宮澤・金内
- 12月18日(木)吉村先生ご提案文書をプリント、斎藤氏と副市長に報告。  
佐賀県知事候補の島谷幸宏氏に有志のカンパと当選祈願のパネルを送付。
- 12月24日(木)植栽木の剪定 木村・宮澤・宮原・金内・酒井・大谷・加瀬
- 12月25日(金)情報開示請求10件の書類を受け取りに北々建へ 加瀬・木村。宮澤
- 1月8日(木)都環境・建設副委員長午前河野氏合流点の視察。佐々木市議・深沢市議共に迎える。中本氏同行。 午後幹事会。
- 1月14日(水)北々建流連 宮澤・加瀬。
- 1月17日(土)『水循環基本法制定と展望』東久留米市主催講演会参加 宮澤・加瀬。
- 1月18日(日)新年会 会場；幸楽 参加者27名。
- 1月19日(月)緑の審議会 萌芽更新地の見回り 3年目の状態を見に行く 宮澤。

- 1月21日(水) 所沢市議中村氏と合流点の緑化利用地について話し合う。宮澤・正木・木村・菊一氏。
- 1月23日(木) 合流点、工事着工の告示。工事期間平成27年2月2日～28年2月
- 1月24日(土) 活動センターの会交流会 戸塚・加瀬・宮澤。
- 1月28・29日 台田の杜 蒔き・ほだ木配付緑の基金募金活動 加瀬・宮澤・田中・鈴木(紀)・金内。
- 1月29日(木) 北朝霞産業会館、「いい川・いい川づくり埼玉研修会」 加瀬・宮澤。
- 1月30日(金) 新河岸流域連絡会参加 加瀬・宮澤。
- 2月5日(木) 幹事会、総会に向けて、合流点对策。
- 2月8日(日) さいたま川の再生交流会参加。分科会で発表 宮澤・加瀬・鈴木(紀)
- 2月11日(水) ダイオキシン第18回総会 加瀬・鈴木(洋)・大谷(恒)・宮澤。
- 2月16日(月) 吉村先生から都庁に12月12日の申し入れの結果報告を頂く。
- 2月21日(土) ロータリークラブ様から物置を頂き植栽地に運ぶ。加瀬・木村・宮澤坂間氏・菅原氏に運搬組立を助けて頂く。
- 2月25日(水) ロータリークラブ様からバケツ多数。ポット等を頂く。
- 2月27日(金) 北々建流連 空堀川流量確保のための施設見学 宮澤・加瀬。
- 3月3日(火) 社協へ 「空堀川・柳瀬川の変遷」編集・発行のための補助金申請。
- 3月5日(木) 幹事会 総会の打合せ等。
- 3月11日(水) 北々建流連、空堀川の将来像について話し合い 加瀬・宮澤。
- 3月17日(火) 環境・川まつり実行委員会 宮澤・金内。

◇◇ 事務局だより ◇◇

■行事予定のお知らせ

○川づくり・清瀬の会「お花見会」

開催日 : 平成27年4月2日(木) 午後5時30分開始

会場 : 幸楽

参加料金 2,500円

※詳細は、事務局までご連絡ください。

○川づくり・清瀬の会「総会」

開催日 : 平成27年4月18日(土) 午後1時30分～4時30分

会場 : 清瀬市活動センター

※総会終了後、「日常ご覧になっていらっしゃる柳瀬川・空堀川について」ご参加の皆様で語り合いたと思います。

○川づくり・清瀬の会 記念誌の発行

戦後 70 年、日本のもっとも激動の時代を経て、柳瀬川・空堀川の流れ、又、河川環境や私たちの生活も大きく変化をしてきました。「清瀬の川、戦前・戦中・戦後・そして現在」の川の様子を会員皆様は勿論のこと河川について語って頂ける市民皆様からも採話をし、河川の歴史がうかがえる 1 冊となり、後世に残せるよう幹事会で決定いたしました。27 年度の記念事業として、詳細がきまりましたら会員皆様のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

○「埼玉県河川環境団体連絡協議会」の皆様清瀬市の川見学会（予定）

柳瀬川の対岸は埼玉県です。都県境になる河川の管理者は東京都北多摩北部建設事務所であり、埼玉県川越建土事務所です。その川づくりの様子を学ぶ機会として、6 月中旬に予定されきよせを訪れます。その日の運営・進行は当会で行うのだそうです。参加者の 1 日が有意義に過ごせますよう皆様のご助力をお願い申し上げます。

○「きよせの環境川まつり」

- 開催日 : 平成 27 年 7 月 26 日（日）  
会 場 : 台田運動公園・柳瀬川河川区域  
内 容 : 川遊び、いかだコンテスト、スタンプラリー、川柳コンテスト  
          フード販売、ゲームコーナー等。  
主 催 : きよせの環境・川まつり実行委員会

■編集後記

清瀬市はカタクリまつり、サクラまつりと待ちに待った花咲く季節となりました。本誌 24 号へご投稿いただきました皆様ありがとうございます。今後とも、会員相互の意見発表の場としての会誌でありますよう、ご投稿をお願いいたします。（次号は平成 27 年 9 月発行予定）事務局だよりでもご案内いたしましたが、本年も各種の行事がございます。皆様奮ってご参加ください。

川づくり・清瀬の会 事務局 宮澤方  
〒204-004 東京都清瀬市野塩 3-69  
電話番号 042-491-3616  
E-メール [kiyosesumire@yahoo.co.jp](mailto:kiyosesumire@yahoo.co.jp)  
ホームページ  
<http://http://kawadukurikiyose.web.fc2.com/>